

「バラは暗闇でも赤いか？」学習プリント3の答え

▼読解のポイント▲

問一 ①主観 ②感覚 ③性質 ④客観的 ⑤存在

問二 空や木立ちやトマトなど、現実の世界は色彩にあふれているから。

問三 ウ

問四 バラは、誰が見ていなくても赤いと考えたいが、いっさいの光がない暗闇では赤くないと考えると、色は主観の内に引き起こされる感覚ということになり、考えが対立してまとまらないから。

◆解説◆色は物の性質なのか、見る者の主観の内に生じる感覚なのかについての考察が本文前半から継続している。筆者の考えは一定の結論を出すものの、なお両者の間での揺れがあり、結論を出すには至らない。この経緯を踏まえてまとめる。

問五 イ

▼まとめの問題▲

問六 「色」とはどのようなものを解明できたこと。

◆解説◆冒頭の一文は文末の一文と結びついている。その文末の一文が「というわけで」から始まり、その直前の「だが、光が：できごとなのだ」の段落内容を意識したものであることを考える。

問七 色は感覚でも物の性質でもなく、世界の中に生じたできごとの一つであると結論づけている。

◆解説◆「私は虹のことを思った」（一七・12）の部分から論調が変化する。ここまで色はそのものの性質であるのか、それとも主観の内に引き起こされる感覚なのかと論じてきたが、新しい視点が変わり、これが本文全体の結論とされている。